

「兵範記」紙背文書にみえる官職申文(上)

吉田早苗

平信範がその大部分を自ら清書した日記「兵範記」が、現在陽明文庫に二八卷⁽¹⁾、京都大学附属図書館に二四卷、分蔵されている。この清書本がもとは一括して近衛家に伝えられていたこと、江戸時代の延宝五年(一六七七)に近衛基熙が信範の子孫である平松時量の要望を入れて一部を譲り、後に平松家所蔵本が京都大学に入ったことはよく知られている。⁽²⁾

約千数百点の「兵範記」紙背文書のうち、京大本の官職申文については先年紹介したが、今回改めて官職申文全体の年紀などを概観し、その上で陽明文庫本紙背の申文を紹介したいと思う。

官職申文は断簡を含めて二三五通、このうち諸司・諸道の掬が四三通、院宮等の年給申文が一四通、個人の申文が一七八通(うち四通は僧侶)である。その年紀は久安六年(一一五〇)十二月から嘉応元年(一一六九)八月までであるが、表1に示すように、久安六年十二月の一七通を除けば、仁安二年(一一六七)―嘉応元年にその大部分が集中しており、

表1 官職申文の年紀分布

年 月	通数
久安二年三月	17
安元二年四月	4
保元二年五月	1
仁安二年六月	1
長寛二年七月	1
仁安二年八月	2
仁安二年九月	2
仁安二年十月	2
仁安二年十一月	2
仁安二年十二月	2
仁安三年正月	1
仁安三年二月	1
仁安三年三月	3
仁安三年四月	2
仁安三年五月	1
仁安三年六月	1
仁安三年七月	2
仁安三年八月	2
仁安三年九月	2
仁安三年十月	2
仁安三年十一月	2
仁安三年十二月	66
仁安四年正月	32
仁安四年二月	1
仁安四年三月	4
仁安四年四月	2
仁安四年五月	25
仁安四年六月	6
仁安四年七月	2
仁安四年八月	40
仁安四年九月	1
仁安四年十月	1
仁安四年十一月	4
仁安四年十二月	1
嘉応元年正月	4
嘉応元年二月	1
嘉応元年三月	1
嘉応元年四月	1
嘉応元年五月	1
嘉応元年六月	1
嘉応元年七月	1
嘉応元年八月	1
嘉応元年九月	1
嘉応元年十月	1
嘉応元年十一月	1
嘉応元年十二月	5
久安二年	17

年欠の五通も同じ時期のものと考えられる。このことは、既に五味文彦氏が指摘されているように、信範が仁安二年二月から嘉応元年十二月まで、蔵人頭であったことによるものであろう。⁽⁴⁾

申文が紙背にある巻は、陽明文庫本では一一巻で申文は一九五通(うち一通は同文庫所蔵の断簡との接続が確認された⁽⁵⁾)、京大本では六巻で四〇通である。陽明文庫本の、仁安三年九月巻は紙背文書全てが申文であり、同七月八月・同十一月・仁安四年(嘉応元年)四月・嘉応元年五月・六月の四巻は、その大部分を申文が占める。また表2に示すように、各

表2 申文の巻別通数と年紀

巻	通数	申文の年紀
仁平二年三月	8	久安6. 12
秋	9	久安6. 12
冬	4	久安元. 11
仁安二年夏	1	長寛2. 正
仁安三年二月	5	仁安2. 11、12、5、3、
夏	8	仁安2. 11、12、5、3、
七月八月	27	仁安2. 11、12、5、3、
九月	32	仁安2. 11、12、5、3、
十一月	10	仁安2. 11、12、5、3、
十二月	51	仁安2. 11、12、5、3、
仁安四年正月	10	仁安2. 11、12、5、3、
四月	32	仁安2. 11、12、5、3、
嘉応元年五月	25	仁安2. 11、12、5、3、
六月	10	仁安2. 11、12、5、3、
七月	1	仁安2. 11、12、5、3、
八月	1	仁安2. 11、12、5、3、
九月	1	仁安2. 11、12、5、3、
十月	1	仁安2. 11、12、5、3、
十一月	1	仁安2. 11、12、5、3、
十二月	1	仁安2. 11、12、5、3、

巻の紙背の申文の年紀が或る程度のもとまりを持ちながら全体として順不同であること、仁安三年七月八月・同九月・仁安四年正月の三巻のうちに、申文の年紀が表の日記の年紀を下る巻があることがわかる。

こうしたことから、信範は、嘉応元年十二月に、延暦寺強訴に関わる問題で後白河院によって解官・流罪に処され、翌年二月に召還された事件以後に、藏人頭時代の申文を整理して料紙とし、日記の清書を行ったのではないかと思われる。なお多量に存在したはずの、仁安四年正月の申文が一通も見えないことは、散逸した巻、例えば嘉応元年七月記などの料紙とされたためであるとの推測も可能であろう。

紙背文書の翻刻を許可された陽明文庫に深く感謝の意を表する。

註

(1) 陽明文庫では、「人車記」の題名で所蔵されているが、本稿では便宜上「兵範記」の名称で統一した。

(2) 西田直二郎「兵範記に就いて」(『史料』一一三)、米田雄介「兵範記と近衛基熙」(『日本歴史』四三三)、上横手雅敬「『人車記』解説」(『陽明叢書記録文書篇』五)。

(3) 「京都大学附属図書館所蔵『兵範記』紙背文書にみられる申文」(『東京大学史料編纂所報』一四)。

(4) 「紙背の信範、晩年の信範」(『陽明叢書記録文書篇』五 月報一六)。

(5) 「人車記断簡」(架番号五一九五八一)。日記では、現状では欠落している仁安三年夏巻の巻頭に接続する。ただし本断簡も前欠である。本稿一六七号文書参照。

陽明文庫所蔵「兵範記」紙背文書の官職申文

凡 例

一、陽明文庫所蔵の「兵範記」において、紙背文書に官職申文のみえる巻は次のとおりである。文書名の下に(六一)のごとくその所在を示した(例は第六号の第一紙)。

第十二函 第一号 仁安二年夏 第五号 仁安三年三月

第六号 仁安三年夏 第七号 仁安三年七月八月

第八号 仁安三年九月 第十号 仁安三年十一月

第十三号 仁安四年正月 第十六号 仁安四年四月

第十七号 嘉応元年五月六月 第十八号 嘉応元年十一月

第十九号 嘉応元年十二月

一、原則として当用漢字を用い、読点(・)並列点(・)を施し、異筆の文字を「」で括り、紙綴目を「」で示した。

一、校訂註のうち、本文に置き換えるべき文字を含むものには「」を、それ以外のものには()を施した。

一、配列は原則として日付順とし、同じ日付の場合は巻・紙の順とした。

一、京大本某号とは前掲拙稿(註3参照)における文書番号を示す。

一 中原信光申文(一七一—四八)

(前欠)

絹二千疋功、任内舎 人

右信光謹案傍例、禊祭用途不足之時、致合期弁遂公事輩 人 拔群褒賞異

他、爰信光去保元元年、忝守 綸言、募内舎 人 功、進納私物二千疋、即預

惣返抄畢、如此成功雖累年曆、随 天恩カ 任要官、聖代通規也、証拠多端不

遑羅縷、望請 誠極誠恐 因准先例、被拜任内舎人闕者、将知成功之不空矣、信

光 謹言、 信光

応保二年 月 日正六位上中原朝臣 信光

二 大法師忠成申文(一一一—一六)

大法師忠成誠惶誠恐謹言、

請特蒙 鴻恩、且任承前例、且依奉公旁、被加補法成 等 三綱職 状

右忠成謹檢案内、以平等院三綱、或被転任当寺三綱、〔或カ〕被兼補、是古今之例也、爰忠成被補法定院上座、平等〔院〕寺主之後、寺役全不致懈怠、然者任成真・仁泉・永賀等〔列カ〕、被補当寺三綱、勤御寺役、誰謂非拋矣、望請 鴻〔恩〕、且依奉公之勞、且任承前之例、被兼補件三綱職者、弥仰憲〔法カ〕、貴、奉祈万歳矣、忠成誠惶誠恐謹言、

長寛二年正月 日大法師忠〔成〕

三 叡子内親王後家申文(七一八)

前無品叡子内親王後家

請被因准先例、以正六位上行民部少丞橋朝臣政清、叙爵狀
右募去久安元年朔且未叙、以彼政清〔可カ〕被叙爵之狀、所請如件、

仁安二年正月廿二日別当從二位行中納言兼左衛門督藤原朝臣隆〔季〕
◎隆季ノ時從三位權中納言、正月二十八日叙從二位、二月十一日任中納言、〔自書〕

四 藤原兼実申文(二〇一三八)

望榮爵、

令左少史三善尚光

仁安二年四月廿四日右大臣正二位藤原朝臣兼〔美〕
◎一二二号参照、〔自書〕

五 八条院申文(二〇一三四)

八条院

正六位上平朝臣知重

望内舍人、

右去応保三年御給二分未補代、所請如件、

仁安二年四月廿五日别当正三位行權大納言兼春宮大〔夫平朝臣重盛〕

◎京大本二九号、一三四号参照、

六 清原行政申文(二〇一五七)

陰子正六位上清原真人行政誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依進納賀茂祭用途祈准絹參〔并正功カ〕、被拜任大

炊・掃部允等〔關カ〕

右行政謹檢案内、以私物經公用之輩、拜任要官者、〔不カ〕不易之例也、爰行政去平治元年四月、進納賀茂祭用途〔解カ〕准絹三千疋、可拜任諸司允闕之由申請之処、依請被 宣下、不日進納藏人所、預物返抄既畢、拜任之処〔誰カ〕非拋、就中神事用途抽賞異他者歟、望請 天恩、〔因准カ〕先例、依進納賀茂祭用途祈准絹三千疋功、被拜任大〔吹・掃部カ〕允等闕者、將知成功之不空矣、行政誠惶誠恐謹言、

仁安二年五月十四日陰子正六位上清原真人〔行政カ〕

七 源知資申文(六一七)

散位從五位下源朝臣知資誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天〔恩・因准カ〕先例、依散位勞、被拜任安藝國權守闕〔狀〕

右知資謹檢案内、居散班之輩、拜任諸國權守者、承前〔之カ〕例也、爰知資散班之勞漸積、兼國之望益遂、拜任之処〔誰カ〕謂非拋、望請 天恩、因准先例、被拜任件官闕者、將知散木〔之カ〕不朽、知資誠惶誠恐謹言、

仁安二季五月 日散位從五位下源朝臣知資

八 藤原朝通申文(七一九)

正六位上行刑部丞藤原朝臣朝通誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、以賜 八条院未給爵、讓与民部丞藤原頼〔兼〕、被

拜任其叙爵替〔狀〕

右朝通謹檢案内、居此省丞之輩、依奉公勞遷任要〔官カ〕者、古今不易之例也、爰朝通拜当職之後、忠勤積勞〔不カ〕匪懈、何況依 八条院北面夙夜之勤節、以

賜未給^{〔高〕}讓与彼頼業、其叙爵替欲被拜任、考先例^{〔不脱九〕}邊毛拳、僉^{〔議之九〕}処何無哀
矜哉、望請 天恩、因准先例、且依勤節之^{〔且九〕}、以讓未給、被遷任件丞闕者、
弥知奉公之不空矣、朝通^{〔誠極〕}誠恐謹言、

仁安二年六月十六日正六位上行刑部丞藤原朝臣^{〔通〕}

九 藤原成時申文(六一六)

〔正六位〕上藤原朝臣成時誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依調進大嘗会御禊奉左兵^{〔衛府九〕}兵士四十人裝束、被拜任修理・大嘗^{〔部九〕}掃^{〔部九〕}

東功、被拜任修理・大嘗^{〔部九〕}掃^{〔部九〕}

右成時謹檢案内、成功之者拜任要官者、是明時之舊^{〔成時九〕}、聖代之恒規也、爰成
時蒙去年十一月 日 宣旨僞、令藤原^{〔成時九〕}調進大嘗会供奉左兵衛府兵衛
四十人裝束、可為諸司^{〔成時九〕}綸言、合期終其功、是則不堪奉公之志、曩履
不日之勤^{〔成時九〕}、処專當其仁、望請 天恩、因准先例、依件成功、被拜任彼官
、將仰聖化之貴、弥竭奉公之志、成時誠惶誠恐謹言、

仁安二年六月 日正六位上藤原朝臣^{〔成時九〕}

一〇 太政官請奏(一〇一三二)

太政官

請特蒙 天恩、因准先例、以正六位上惟宗朝臣致正、被拜任内舍^{〔入〕}

致令調進当局文殿文書櫃參佰合、結緒革參拾^{〔入〕}

右得致正款狀僞、謹檢案内、去長寛元年当局造營之^{〔入〕}、為令全納旧記、募内
舍人功、以致正所申請也、然而勸^{〔入〕}力進納畢、成功之輩要官被抽任者、承前
之例也、^{〔入〕}功拜除之処誰謂非抛、早被奉^{〔入〕}奏、將遂宿望者、^{〔今九〕}加覆審所申
有実、望請 天恩、因准先例、以件致正^{〔入〕}拜任内舍人者、弥竭成功之貴矣、
仍勸事狀、謹請 処^{〔分〕}、

仁安二年七月 日

正六位上行權少外記物部宿禰^{〔宗〕}^{〔官〕}^{〔自署〕}

正六位上行少外記中原朝臣^{〔師〕}^{〔高〕}
正六位上行少外記中原朝臣^{〔師〕}^{〔高〕}
正五位下行大炊頭兼大外記主計權助教越前權介中^{〔原朝臣〕}
正五位下行大舍人頭兼大外記備後權介清原真人^{〔賴業〕}
從五位上行少納言兼侍從源朝臣^{〔定〕}^{〔密〕}
從五位上行少納言兼侍從土左權守源朝^{〔信康〕}

(後欠)

一一 惟宗忠康申文(六一二)

前右兵衛尉正六位上惟宗朝臣忠康誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、以私物准絹万疋、依進納伊^{〔勢九〕}裝束新功、
被拜任左右衛門^{〔尉〕}

右忠康謹檢案内、以私物經公用之輩、拜任^{〔要力〕}官、聖代之恒典也、爰忠康
進納彼用途新絹万疋、不^{〔通九〕}除目可拜任左右衛門尉之由、經 奏聞之
処、去^{〔入〕}日、依請被下 宣旨了、仍守如汗之綸言、即致^{〔入〕}納、而每
有魚書雖成鶴望、宿運惟拙朝恩未覃、抑^{〔入〕}成功抽賞異他、採扱之処誰謂
非抛、望請

天恩、因准先例、以件功被拜任左右衛門尉者、將知^{〔忠康〕}貴矣、

仁安二年潤七月 日前右兵衛尉正六位上惟宗朝臣^{〔忠康〕}

一一 藤原親資申文(六一三)

正六位上藤原朝臣親資誠惶誠恐謹言、

請特蒙 天恩、因准先例、以私物式任疋、依進納禊祭用途^{〔新九〕}功、被拜任内
舍人^{〔親資〕}

右親資謹檢案内、依成功拜任要官者、古今不易之通規也、爰^{〔親資〕}忝守 宣

正六位上藤原朝臣親資誠惶誠恐謹言、

請特蒙 天恩、因准先例、以私物式任疋、依進納禊祭用途^{〔新九〕}功、被拜任内
舍人^{〔親資〕}

右親資謹檢案内、依成功拜任要官者、古今不易之通規也、爰^{〔親資〕}忝守 宣

正六位上行權少外記物部宿禰^{〔宗〕}^{〔官〕}^{〔自署〕}

正六位上行權少外記物部宿禰^{〔宗〕}^{〔官〕}^{〔自署〕}

下、苟勵〔微力〕所進納也、就中禊祭用途新功〔者力〕、為敵重事抽賞異他、僉議之処、唯仰哀愍而已、望請
天恩、准先例、被拜任件官者、將仰就日望雲之化、弥知私〔物〕公用之敵矣、親資誠惶誠恐謹言、

仁安二年八月一日正六位上藤原朝臣〔親資〕
◎六五号、一〇七号、一三三号、一八七号参照、

一三 平盛業申文(一〇—五六)
正六位上平朝臣盛業誠惶誠恐謹言、

請特蒙 天恩、因准先例、依石清水・賀茂兩社 行幸御神宝用途新准〔額〕
伍任疋進納行事所功、被拜任左右兵衛尉闕狀

右盛業謹檢案内、以私物經公用之輩、拜任要官、古〔今力〕不易之通規也、件功去仁平元年八月十七日、宣〔柄〕柄焉也、而讓得之後、重所被下 宣旨也、依人之讓、拜任左右兵衛尉、先蹤連綿不違羅縷、就中神〔用〕用途 公家所重也、望請 天恩、因准先例、依成功〔讓力〕、被拜任左右兵衛尉者、弥知公用之不空、將仰皇化〔空力〕無偏矣、盛業誠惶誠恐謹言、

仁安二年十月十日正六位上平朝臣盛業

一四 清原賴業申文(六一—四七)

正五位下行大舍人頭兼大外記備後權介清原真人賴業誠惶誠恐謹言、
請殊蒙 天恩、因准先例、罷所帶備後權介、以男正六位上康家、〔被力〕拜任〔被力〕闕狀

書・玄蕃・主殿允等闕狀

右賴業謹檢案内、為大外記之者、罷所帶遙授、以息〔子力〕申任諸司三分者、古今之芳規也、近則中原師業〔同力〕・師元朝臣・同師尚等是也、於師元者兩度有此恩、〔於力〕師尚者、雖為位次之下、去年以師倫先申任內藏、允畢、准彼等例被優恤者、誰謂非拋、望請 天〔恩〕、被罷備後權介、以件康家被拜任彼等闕者、將〔令力〕竭奉公之節矣、賴業誠惶誠恐謹言、

仁安二年十月十九日正五位下行大舍人頭兼大外記備後權介清原真人賴業

◎四六号、六四号参照、

一五 大江基家申文(二〇—五九)

(前欠)
敵重之由矣、基〔家〕誠惶誠恐謹言、

仁安二年十一月十七日正六位上大江朝臣基家

◎八四号参照、

一六 中原經弘申文(七一—二五)

從七位上行木工大属中原朝臣經弘誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依当職勞、被叙從五位下狀
右經弘謹檢案内、居当職之輩、叙從五位下者、〔承前力〕不易之通規也、傍例多存不違毛拳、爰經弘任寮〔承前力〕于茲、云節會 行幸供奉、云寮役・堂童子勤、奉公多〔已〕至今浴 朝恩誰謂非拋、望請 天恩、因准先例、依〔當職力〕勞、被叙從五位下者、將仰奉公之節矣、經弘誠惶〔誠恐〕謹言、

仁安二年十一月 日從七位上行木工大属中原朝臣〔經弘〕

一七 源定明申文(七一—三)

内舍人正六位上源朝臣定明誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依造進蘭韓神社并進納 院御熊野詣〔後同〕

伍任疋功、被遷任左右衛門尉狀

右定明謹檢旧貫、以私物經公用之輩、拜任要官者、聖代不〔易力〕、而堀河院御時、親父左馬允源定國募較負尉功、依被下〔實旨力〕、土木功、即令請覆勘畢、其後不遂本望空以卒去、然問定明〔鳥羽院之〕御時候武者所、積重代奉公之勞、仍以親父定國成功、可為定〔明負尉力〕功之由、更又被仰下之後、宿運拙未浴 朝恩、爰終彼成功忝全〔天之勳乎力〕、以往之例不違羅縷、近則大江遠業、以件四壁之功拜任是也、況莫〔返抄畢、前後力〕加之為超越之功、去二月進納院御熊野詣用途新五千疋、即預惣〔返抄畢、前後力〕敵重之成功、採扱之処誰謂

非抛矣、望請 天恩、因准先例、依彼^{〔明誠惶誠恐〕}遷任左右衛門尉者、將仰賢聖之無偏、弥知成功之不空矣、定^{〔朝臣定明〕}謹言、

仁安二年十二月一日内舍人正六位上源^{〔朝臣定明〕}
◎四三号参照、

一八 源貞康申文(七一一二)

正六位上源朝臣貞康誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、以私物准絹伍仟余疋、依進納日吉社神宝用途^{〔被拜任左右馬允〕}、

右貞康謹檢案内、以私物經公用之輩、任要官者、古今之例蹤^{〔存、其中〕}、

勅願成功・神事用途、採択異他抽賞無拘、爰貞康忝^{〔余定之〕}仙院之觀宣、殊為日吉之神宝、募左右馬允之功、准絹五千^{〔進納彼行事所、早預惣返抄畢、每色每物尽善尽美、今拜除〕}、

右馬允者、將知^{〔不空矣、貞康誠惶誠恐謹言、〕}天恩、^{〔因〕}准先例、被拜任左

仁安二年十二月一日正六位上源朝臣貞^{〔康〕}

一九 大中臣惟親申文(七一二七)

文章生正六位上大中臣朝臣惟親誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依成業^{〔替状力〕}、被拜任兵部丞橋仲俊遷任式部丞^{〔替状力〕}、

右惟親謹檢案内、為文章生之者、任二省丞者、聖代之恒^{〔替状力〕}、明時之勝躅也、然而宿運既拙 朝恩未及、僉議之処何^{〔親〕}哀憐、望請 天恩、因准先例、依成業^{〔替状力〕}、被拜任兵部丞^{〔替状力〕}、仲俊遷任式部丞替者、專竭勤節矣、惟親誠惶誠恐^{〔謹言、〕}、

仁安二年十二月一日文章生正六位上大中臣朝臣惟^{〔親〕}

二〇 藤原璋子家申文(七一二八)

女御從三位藤原朝臣璋子家

請因准傍例、返上年給未補外国三分四人、以正六位上^{〔上脱〕}行少外^{〔記〕}中原朝臣

師高、被叙爵状

外国三分

平治元年給未補

応保元年給未補

同 二年給未補

長寛二年給未補

右返上年給未補外国三分四人、申榮爵者例也、仍以件師^{〔高〕}可被叙爵之状、所請如件、

仁安二年十二月一日别当正二位行陸奥出羽按察使藤原朝臣^{〔自署〕}、

二一 源向申文(一〇一五八)

正六位上源朝臣向誠惶誠恐謹言、

請特蒙 天恩、因准先例、依当季賀茂祭女使典侍用途^{〔新〕}進納准絹式仟疋

功、拜任内舍人状

右向謹考案内、以私物經公用之輩任要官、承前^{〔之之〕}例也、仍募式仟疋絹為内舍人功、賜惣返抄、随又^{〔最之〕}前除目可任之由、被 宣下畢、就中禊祭用途^{〔著不之〕}、

過一度除目、抽賞無擬、嚴重異他、而数度除書^{〔著不之〕}漏恩、抑内舍人者、每度除書或五六人、或七八人、云^{〔替状力〕}云臨時無不任之、爰向成不日之功、無

拜除之任、不^{〔替状力〕}皇恩之遲覃、忝似神事之始輕、採択無期、^{〔非今之〕}度期何日、愁吟難休、俗朝恩休斯時、薦拳^{〔替状力〕}泣仰無偏、望請 天恩、因准先例、被拜

任者、勵^{〔勤王之之〕}節、竭奉公之忠矣、向誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月一日正六位上源朝臣向

◎一二五号、一九二号参照、

二二 神祇官請奏(六一六二・六三・六四)

神祇官

請特蒙 天恩、因准先例、依重代奉公^{〔真〕}、以宮主從五位上下部宿禰兼^{〔真〕}、

被加任權大祐状

一、当官副・祐被加置例

正六位上中臣朝臣丸

天長九年初加任權少祐、于時大祐(大中臣)天足、少祐石河、

從五位下大中臣朝臣逸志

嘉祥二年被加置權少副、于時大副末嗣、少副(大中臣)久世主、

從五位下卜部宿禰平曆

天安二年加任權大祐、于時大祐(大中臣)豐雄、少祐伯江、

正六位上大中臣朝臣清光

永觀二年加任權少祐、于時大祐(齋部)守親、權大祐(大中臣)理望、
少祐保近

正六位上大中臣朝臣師忠

永延元年加任權少祐、于時大祐(大中臣)守親、權大祐(大中臣)理望、
少祐清光

從五位下大中臣朝臣永賴

永祚元年加任權大副、于時大副(大中臣)能宣、少副(卜部)兼延、
權少副理望

(脱アラン)

同年加転權大祐、于時大祐(大中臣)守親、權大祐(大中臣)宗幹、少祐全連、
權少祐師忠、權少祐正実、
(伊岐カ)

正六位上大中臣朝臣佐俊

同年被加任權少祐、于時大祐(大中臣)守親、權大祐(大中臣)宗幹、權大祐(大中臣)清光、
少祐全連、
權少祐師忠、權少祐正実、

一、散位者任諸司三分例

從五位下卜部平曆

天安二年三月任神祇權大祐、官主旁、

從五位下安倍泰茂

保元三年正月任陰陽大允、重代奉公旁、

右謹考案内、当官副・祐之中、被加置權官者、朝家之善□□、粗注先蹤載于状右、加之公卿以下文武諸司、上古以降興廢□□、近代之例皆是令条之外、臨時之議也、凡為官求人、為人不扱□□先哲之格言也、倩案旧規、卜部官人數輩同時所相並也、偏是□□所以優藝扱氏、賞旁抽人之故也、當時副祐

之中、僅卜部二□□(六カ)、龜兆之術如無優賞、職掌之勤動欲懈緩、為朝為氏□□不

奏、爰兼貞者、大副兼親之玄孫、大副兼政之曾孫、少副兼俊□□孫、權大副兼

康之男也、家受譜第、灼龜之術繼跡、志在奉□□(公カ)、聚蚩之勤不怠、就中伊勢幣

帛之時、忝列四姓勅使焉、平□□(野)祝賽之日、鎮祈万歳宝祚矣、何況為氏上薦居

宮主職、或□□(野)

(脱アラン)

權大祐、天安佳例尤以相叶、已為旧跡、誰謂新儀□□□□見賢思齊、僉議之

処唯仰哀憐、望請 天恩、因准先例、依重代奉公旁、以件兼貞被加任祐者、

將俾後昆知官藝□□(カ)不空矣、仍勒在状、謹請 処分、

仁安二年十二月三日

從五位上行權少副大中臣朝臣(仲)為□□

祭主從四位上行少副大中臣朝臣(自署)親□□

正五位下行權大副卜部宿禰(康)兼□□

正四位上行大副大中臣朝臣(自署)師□□

伯 從 四 位 下(自署)頭(自署)廣□□

◎二三号、京大本二五号参照、

二三 卜部兼貞申文(六一四三)

宮主從五位上下部宿禰兼貞誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依譜第奉公旁、拜任諸国權守闕状

右兼貞謹考案内、重代奉公之輩、各抽任要官者、朝家之恒規、明時之善政

也、爰兼貞者、神祇大副兼政宿禰曾孫、少副兼俊之孫、權大副兼康之男也、

家受譜第、灼龜之術繼跡、志在奉公、聚蚩之勤不怠、加之伊勢奉幣使、軒廊

御卜役、共抽勤節未致懈怠、就中當時為宮主之者殊被優異、今浴玄渙誰謂

非拋哉、望請 天恩、因准先例、依譜代奉公旁、拜(任)件官闕者、將竭勤王之

節矣、兼貞誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月四日宮主從五位上卜部宿禰兼貞

〇二二號、京大本二五號參照、

二四 藤原能資申文(六一五五)

正六位上行少內記藤原朝臣能資誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依成業并奉公勞、被拜任民部丞闕狀

右能資謹考旧貫、仕起居職之輩、任彼省丞系、有限之例無絕之議也、其中於成業士者、謂任日之次第、超閑惠露之登用、爰能資成業之勞兼上藤之理、何況移拜之勤着之忠、屢逢希代之勝事、頻積奉公之殊功、務之勞傍輩巨競者歟、就中彼省之丞置成業、而今于斯時已無其人、殊為復代之、盍置稽古之人、因茲成業之人若心撰、奉公之士宜當仁也、云此云彼、旁懷顯白之理、仰淳素之化、望請 天恩、因准先例、依成業并奉公勞、被任件官者、將誇拜越之功矣、能資誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月四日正六位上行少內記藤原朝臣能資

二五 藤原義業申文(六一五〇)

正六位上藤原朝臣義業誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依進納 鳥羽院御願春日御御仏并四面天蓋

作折伍万柒仟疋內參仟疋功、被拜諸司允闕狀

右義業謹檢案内、依成功任要官者、承前例也、爰義業去保五年正月、初望申內舍人進納式仟疋、後又改內舍人望為申司允、保元元年正月加進仟疋、前後相并參仟疋、各預返抄、殊勵少量雖成大功、鴻慈未覃鶴唳空疲、望請 天恩、因准先例、依進納件物功、拜任諸司允闕、將知成功之不可、義業誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月五日正六位上藤原朝臣義業

二六 藤原賴行申文(一〇一四一)

正六位上藤原朝臣賴行誠惶誠恐謹言、

請特蒙 天恩、因准先例、依以私物式仟疋進納初齋宮東河御禊蔀屋用途功、內舍人狀

右賴行謹檢案内、募內舍人功、去九月十一日、忝汗之論言、苟勵合期之微功、進納件用途、即闕抄畢、以私物經公用之輩、隨申請拜任要官、承不易之定準也、就中初齋宮御禊用途、為嚴重抽賞異他、僉議之処唯仰哀憐而已、望請 天恩、因准先例、被拜任件官者、弥浴行葦之仁、將休積薪之、賴行誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月六日正六位上藤原朝臣賴行

二七 中原家職申文(七一七)

前內舍人正六位上中原朝臣家職誠惶誠恐謹言、

請特蒙 天恩、因准先例、被遷任本官狀

右家職謹檢案内、文武諸司年限不滿被解却、逐施新化尚任本官者、先跡非一傍例且千也、家職久壽年中任吉社遷宮之時、募內舍人、造進鬼原社荒垣七十二丈之上、永曆二年鴨御遷宮用途折之內、為超越功又以進納、即預行事返抄畢、謂兩度之殊功、為一朝之神事、共守明綸言、旁致合期之勤節、仍心採掇之撰、浴拜除、行幸供奉、臨時雜役、每蒙催促敢不懈怠之間、四廻、早喪二親不從公務、依籠私廬暗處不仕、空官、愁歎之切且夕無聊、美思年限之不滿、尤仰尚及、何況中原盛雅為同官同時雖被解官、去年任已畢、望請 天恩、因准先例、被遷任本官者、將違化之無偏矣、家職誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月七日前內舍人正六位上中原朝臣家職

二八 大江仲重申文(六一四五)

藏人所出納正六位上大江朝臣仲重誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依上日勞、被拜任外記、官史申叙爵替狀

右仲重謹檢案内、為藏人所出納之輩、拜任外記、官史者、承例也、爰仲

重越拜抽節夙夜匪懈、拜除之処誰謂非抛、〔皇請〕

天恩、因准先例、被拜任件替闕者、弥竭奉公之節、〔奏〕仲重誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月八日藏人所出納正六位上大江〔朝臣仲重〕

二九 皇太后宮職申文(六一六〇)

〔藤原皇子〕
皇太后宮職

正六位上行民部少丞藤原朝臣頼業

望榮爵、

右去長寛二年朔旦冬至御給爵未叙、仍所請如件、

仁安二年十二月八日正三位行權大夫兼修理大夫大宰大貳平朝臣〔自署〕頼盛

三〇 三善行頼申文(六一六一)

囚獄正正六位上三善朝臣行頼誠惶誠恐謹言、

請特蒙 天恩、因准先例、依為儒後、被遷任少外記中原師高申叙爵替〔狀〕

右行頼謹考旧貫、出於一道居于諸司之輩、遷任外史者、承前之〔例也之〕

代之士仁恩異他、爰行頼者、故從四位下行諸陵頭行康朝〔臣〕二男、從五位上

行算博士行衡舍弟也、算曹嗜業、久習鸞術之道、家〔有〕有蹤、壹步鸞台之塵、

採扱之処誰人比肩乎、望請 天恩、因〔准〕先例、依為儒後、被遷任件官闕者、

新誇 明時之洪慈、弥知稽古〔之〕不空矣、行頼誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月八日囚獄正正六位上三善朝臣行〔頼〕

三一 清科盛辰申文(六一四八)

散位從五位下清科朝臣盛辰誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依陰陽道勞、被拜任内藏助闕狀〔要力〕

右盛辰謹檢案内、仕当寮叙五品之輩、雖無所募拜除〔要力〕官者、承前不易之例

也、爰盛辰多季勤寮役、當時預〔卷之〕因效志節甚重、俛俛匪懈、然間 朝恩運

遲宿望未遂、幸〔有〕有道之邦、忝仰無偏之化而已、就中内藏助者、当寮之者所

來也、况又可勤仕賀茂祭之由申請之時、無左右被拜任〔乎〕、僉議之処誰

謂妄授、望請

天恩、因准先例、被拜任内藏助闕者、弥仰賢聖之貴、將〔憲法之〕敵、盛辰誠

惶誠恐謹言、

仁安二年十二月九日散位從五位下清科朝臣盛〔辰〕

三二 中原師直申文(六一五七)

從五位上行直講中原朝臣師直誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依稽古并儒勞次第、被轉任助教師尚辭退所帶

以男師家欲申任直講替狀〔中原〕

右師直謹考旧貫、助教有闕之時、以直講上薦被轉任〔考之〕、古今之恒典也、就中

稽古之輩採扱異他、爰師直保元〔季力〕被行試扱能之時、苟拔群英之中、適加

五儒之末、自爾以〔一〕十一箇季、久致拜越於孔廟、鎮嗜學業於蚩窓、加之〔院〕

御宇心精選、陪記錄所、當時又寓書閣疲讎校、并〔北〕北面積勞効、凡官學之功

殆過儕輩、登庸之榮唯仰〔哀〕憐、而今助教師尚辭退所帶、以男師家可任直

講云〔之〕、然則儒官之例不超次第、轉任之運專当其仁、望請 天恩、因准先

例、依稽古并儒勞次第、被轉任助教師尚辭退替〔季力〕、將知儒學之不空、弥仰

皇沢之無偏、師直誠惶誠恐謹言、

三三 橘資季申文(七一一一)

正六位上行修理少進橘朝臣資季誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依侍所所司多年奉公勞、被遷任民部丞狀

右資季謹檢案内、自当職進任民部丞者、突代之定準、明時之恒規也、其〔所〕

諸院官侍所所司奉公年久之輩、採扱異他登用必及、爰資季心保三年〔所〕當

職以降、久奉二代之聖朝、多送五廻之年景、況候 高松院侍所〔司〕戴

星致勤、旁思効功、尤仰優恤而已、望請 天恩、因准先例、被遷彼官〔勞力〕知

奉公之不空矣、資季誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月九日正六位上行修理少進橘朝臣資〔季〕

三四 三善為清申文(一〇—四四)

正六位上行内膳典膳三善朝臣為清誠惶誠恐謹言、

請特蒙 天恩、因准先例、依重代并奉公勞、被遷任少外記中原師高申叙爵替狀

右為清謹檢案内、諸道稽古之士、當司積勞之輩、任外〔記〕者、先跡非一傍例且千也、其中重代之者、採択異他登〔用カ〕必応、爰為清善家稟塵、算道嗜業、雖非龍鳳之才、〔聊カ〕伝鸞雀之術、誠是外記者累祖経歴之官、宿望殊切、内〔膳〕者奉公念劇之職、朝恩蓋覃、方今六位外記申叙爵〔致カ〕思其替尤当其仁、縱有群僚之競申、誰押譜第之理〔致カ〕乎、望請 天恩、因准先例、被遷任件替、將仰 皇化〔之カ〕無偏矣、為清誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月九日正六位上行内膳典膳三善朝臣為〔清〕

◎八一号参照、

三五 平清国申文(一〇—五二)

正六位上平朝臣清国誠惶誠恐謹言、

請特蒙 天恩、因准先例、依令進納

〔後白河上皇〕院御熊野詣〔用カ〕式任疋功、被拜任内舍〔入〕

右清国謹檢案内、以私物経公用之輩、随申請拜〔聖代不易之通規也、〕爰清国去二月 院御熊野〔論カ〕可為成功之由、依被 仰下、募内舍人功、不日進納〔稱カ〕於行事所、即預物返抄畢、望請 天恩、因准先〔例〕成功、被拜任内舍人闕者、將仰賢聖之無偏〔稱カ〕空矣、清国誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月九日正六位上〔平朝臣清国〕

三六 源邦忠申文(五一—二九)

正六位上源朝臣邦忠誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依進納大嘗会御禊用途女房〔裝カ〕絹〔新准カ〕五千疋功、拜任左右馬允闕〔也〕

疋功、拜任左右馬允闕〔也〕

右邦忠謹檢案内、以私物経公用之輩、随申請而拜〔要カ〕官者、不易之恒典也、爰邦忠去年十月大嘗会御〔殿用途カ〕新、進納准絹五千疋、即預物返抄先畢、仍雖存可〔也〕左右馬允最前闕之由、卑聽不達空送星霜、今被抽〔誰カ〕謂非拋、僉議之処唯俟哀憐而已、望請 天恩、〔因准カ〕先例、被拜任左右馬允闕者、將全警衛之節矣、邦忠誠〔也〕誠恐謹言、

仁安二年十二月十日正六位上源朝臣〔邦忠〕

三七 藤原家信申文(五一—三一)

正六位上行内匠助藤原朝臣家信誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、被拜任式部丞〔藤原〕為貞申叙爵替狀

右家信謹檢案内、公卿二合諸司助、被抽任式部丞〔藤原〕例也、雖兵部丞不可争、雖他官不可競、是已恒規也、〔保〕者歟、拜除之処誰謂非拋、望請 天恩、因准先例、被拜〔任〕、弥尽奉公節矣、家信誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十日正六位上行内匠助藤原朝臣家信〔原朝臣家信〕

三八 平則光申文(六一—四四)

正六位上平朝臣則光誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、以〔藤原折子〕皇后宮職当年御給并去〔保〕元年未給、拜任左右兵衛少尉、左右馬少允闕〔也〕

右則光謹檢案内、以〔關者カ〕諸院宮御給、拜任件官等〔保〕承前不易之例也、爰則光当年御給之上、去〔年脱カ〕元年未給、親父則次所讓給也、以一年御給多拜除〔也〕、況於二箇御給乎、拜任之処誰謂非拋、望請 天恩、因准先例、以件御給、被拜任彼官等闕者、將致警衛之〔勳カ〕、則光誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十日正六位上平朝臣則光〔則光〕

◎五四号参照、

三九 藤原兼光申文(七一—四)

正六位上行左馬少允藤原朝臣兼光誠惶誠恐謹言、

請特蒙 天恩、因准先例、依修造近江国兵主社神殿・舎屋・門〔兼保力〕功、拜

任左右衛門〔兼保力〕

右兼光謹檢案内、依土木功拜要官者、聖代之例也、爰〔兼保力〕左右衛門尉功、可修造彼社之由、經 奏聞之処、依請〔兼保力〕宣旨畢、仍任狀令造營、雖未畢覆勦、宣下之後〔兼保力〕望官之例、不違毛拳、望請 天恩、因准先例、依伴功〔兼保力〕左右衛門尉者、將知成功之不空矣、兼光誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十日左馬少允藤原朝〔兼保力〕

四〇 大中臣頼繼申文(七一六)

正六位上行彈正忠大中臣朝臣頼繼誠惶誠恐謹言、

請特蒙 天恩、因准先例、依當職并奉公勞、被拜任民部丞申叙〔兼保力〕

右頼繼謹檢案内、居當職之輩任彼丞者、聖代之〔兼保力〕也、爰頼繼雖為第二

忠、即到本台行幸・節〔兼保力〕等役、每有其催未致解怠、加之祇候椒庭、格〔兼保力〕尚、苟生重代之宅、忝帶顯要之職、其後〔兼保力〕除目、注事由頻經上聞、然而鶴唳空竭鴻慈〔兼保力〕降、独抱後輩之歎、未繼先輩之蹤、拜除之処〔兼保力〕當其仁、望請 天恩、因准先例、依當職并奉公〔兼保力〕、被轉任民部丞申叙爵替者、弥仰勤王之節矣、頼繼〔兼保力〕誠恐謹言、

仁安二年十二月十日正六位上行彈正忠大中臣朝臣〔兼保力〕

四一 源行景申文(七一七)

正六位上行大学少允源朝臣行景誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、募去仁平三年馬允成功并久寿元年同〔兼保力〕

被遷拜民部丞、左右兵衛尉等闕、若又以超越功一事、拜任刑部丞闕〔兼保力〕

右行景謹檢案内、去仁平二年

鳥羽院御賀之時、募左右馬允成功、進納私物伍仟〔兼保力〕行事所預物返抄、朝恩遲及宿望難遂、仍久寿〔兼保力〕月、故粟田口天台座主宿坊作所不足物、准綱式任〔兼保力〕捌拾余疋、俄依 院宣募超越功、不日調進合期究濟〔兼保力〕

二条院震坊、列帶刀舎人、

高松院侍所猶為上日衆、所募非一其勞旁多、爰〔兼保力〕年中預 同院御給、拜

任當職、雖非素懷且喜〔兼保力〕、謂坊官賞謂典厥功、未蒙 天憐徒涉年序、然則〔兼保力〕殘之功等、可遷拜民部丞、左右兵衛尉之由、所申請〔兼保力〕任刑部丞者、可募超越功一事也、允許之処誰謂〔兼保力〕、望請 天恩、因准先例、被遷拜伴官等闕者、將知〔兼保力〕之不空矣、行景誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十日正六位上行大学少允源朝臣〔兼保力〕

四二 藤原能資申文(七一四)

蔭子正六位上藤原朝臣能資誠惶誠恐謹言、

請特蒙 天恩、因准先例、依以私物准綱柴任疋進納〔兼保力〕太神宮公卿勅使

用途功、被拜任左右兵衛尉〔兼保力〕

右能資謹檢案内、以私物歷公用之輩、依其成功拜任〔兼保力〕、古今不易之例也、爰能資募左右兵衛尉功、去永万〔兼保力〕五月廿三日可被進發伊勢公卿勅使用途新准綱〔兼保力〕、期日以前進納藏人所、同月八日賜預返抄既畢、〔兼保力〕太神宮用途析者、抽賞勝他者歎、望請 天恩、因准〔兼保力〕、依進納私物之功、被拜任伴官闕、將知成功之不空、能資〔兼保力〕誠恐謹言、

仁安二年十二月十日蔭子正六位上藤原朝〔兼保力〕

四三 源定明申文(七一六)

内舎人正六位上源朝臣定明誠惶誠恐謹言、

請特蒙 天恩、因准先例、依造進蘭韓神社并進納〔兼保力〕院御〔兼保力〕物准

綱伍仟疋功、被遷任左右〔兼保力〕

右定明謹檢旧貫、以私物經公用之輩、拜任要官〔兼保力〕不易之恒典也、而堀河院御時、依被下〔兼保力〕宣旨、親〔兼保力〕源定国募駁負尉功、造進彼社請覆勦〔兼保力〕畢、其〔兼保力〕空以卒去、然間定明 鳥羽院御時候武者所、積重〔兼保力〕勞、仍以親父定国成功、可為定明駁負尉功之由、更〔兼保力〕宣下之後、宿運拙

而未浴 朝恩、爰終彼成功〔職之輩、以往之例不遑羅縷、近則大江遠業、以件四〔壁之功〕拜任是也、況莫大之勤乎、加之超越之功、去二月〔進納〕院御熊野詣用途斫五千疋、預惣返抄畢、前後嚴重〔之成功〕、採択之処誰謂非拋矣、望請 天恩、因准先例、依彼〔功、被遷任左右衛門尉者、將仰賢聖之無偏、知成功〕矣、定明誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十日內舍人正六位上源〔朝臣定明〕

○一七号参照。

四四 民部省請奏(七一—一九)

民部省

請特蒙 天恩、因准先例、以正六位上行少錄紀朝臣成重、拜任官吏申叙

爵替〔狀〕

右得成重款狀稱、謹考案内、官吏之中、歷當省錄之者、一人〔任來也、而近年諸司三分、文章生・式部錄・勅解由主典・藏人〔所出納〕等、類浴 朝恩相並官吏、當省錄如無其人、爰成重拜任當〕後、省役恪勤既超傍輩、幸庇清撰誰謂非拋者、今加覆〔審所〕申有美、望請 天恩、因准先例、以件成重被任官吏矣、仍勒在〔狀、謹請〕

仁安二年十二月十日

從五位上行權少輔藤原朝臣

正五位下行少輔源朝臣

正五位下行權大輔源朝臣

從五位上守大輔源朝臣〔兼房〕

從二位行卿藤原朝臣〔光〕〔自署〕

○一六四号参照、

四五 中原季貞申文(七一—二〇)

正六位上行少判事中原朝臣季貞誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、拜任左衛門大志章貞申轉任替、即蒙檢非違〔中厚〕

使〔當官狀〕

右季貞謹檢案内、道志轉尉之時、以法家習學之者、被抽〔繼子〕古今之例也、爰季貞者、助教〔中厚〕季之男、明法博士章貞之〔繼子〕也、昔者出於經家、自訪儒學累葉之遺教、今者入于法曹、將〔三代之先蹤、當時競望之中、更無比肩之者、採択之処唯仰〕望請 天恩、因准先例、拜任彼轉任替、即蒙檢非違〔當官狀〕者、將仰 皇化之無偏矣、季貞誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十日正六位上行少判事中原朝臣季〔貞〕

四六 清原賴業申文(七一—二一)

正五位下行大舍人頭兼大外記備後權介清原真人賴業誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、罷所帶備後權介、以男正六位上康〔家被之〕拜任〔書・玄蕃・主殿・掃部允等闕狀〕

右賴業謹檢案内、為大外記者、罷所帶遙授、以息子中〔任諸力〕司三分者、古今之芳規也、近則中原師業・同師元朝臣〔同力〕師尚等是也、於師元者兩度有此恩、於師尚者、雖位次之〔下〕、藹、去年以師倫申任內藏少允畢、准彼等例被優恤〔者、誰力〕謂非拋、望請 天恩、被罷備後權介、以件康家被拜〔任彼力〕等闕者、將令竭奉公之節矣、賴業誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十日正五位下行大舍人頭兼大外記備後權介清原真人賴〔業〕

○一四号、六四号参照、

四七 藤原博泰申文(七一—二四)

正六位上行中務丞藤原朝臣博泰誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依陪從并當職勞、遷任兵部丞〔狀〕

陪從勞十六年

本省勞十二年

右博泰謹檢案内、居諸司輩依奉公勞、不乱次第□兵部丞者、承前不易之例也、而藤原賴業同時之□也、早經吏部已叙五品、同範宣云陪從云給官巡、共是博泰□薦也、同遂本望便預階級、又掃部助橘仲俊、陪從之後以三箇□勞、被任兵部丞既畢、爰博泰有何過怠徒送十六年、獨隔□里、何況本省役奉公節、偶俛之忠夙夜匪懈、嗟呼後進超肩□之愁難忍、知命顯齒散木之運非歎、此時不垂^{〔彼〕}哀憐者、何□^{〔官力〕}遂他望哉、望請 天恩、因准先例、依當職并陪從勞、遷拜□者、將知有道之化矣、博泰誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十日正六位上行中務丞藤原朝

四八 西市司請奏(七一—二六)

西市司

請特蒙 天恩、因准先例、以正六位上行主稅少屬佐伯朝臣久孝、被轉任

□^{〔官力〕}

右得久孝狀、稱、謹檢案内、諸司奉公之輩、雖無所募轉任□、古今之例不違毛舉、爰久孝任當職後、寮底之役多積、夙夜□懈、就中祇候 射山忠勤異他、加之 御熊野詣□共、云本山云新社□其闕所令參詣也、何況參仕之輩皆於浴抽賞哉、每見傍輩之昇□一身之沈滯者、今加覆審所申有實、望請 天恩、因准先例、以件久孝□^{〔被轉任力〕}佑闕者、將仰奉公之不公矣、仍勒事情、謹請 處分、

仁安二年十二月十日

正六位上行佐三善^{〔清信〕}朝臣^{〔朝臣〕}

從五位下行正佐伯^{〔朝臣〕}

四九 平國賴申文(一〇—三三)

正六位上平朝臣國賴

望內舍人、

仁安二年十二月十日

◎五一号参照、

五〇 藤原朝宗申文(一〇—四二)

正六位上藤原朝臣朝宗誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依進納伊勢初齋院御禊用途新准絹□任疋功、

拜任內舍人狀

右朝宗謹檢案内、依成功任要官者、承前之例也、爰朝宗^{〔今年力〕}九月伊勢初齋院御禊之時、進納彼用途新、可令拜任內舍^{〔人〕}之由、被下 宣旨畢、不日勅徵力、合期令進納、即取行事□^{〔所總力〕}返抄既畢、今必採摺誰謂非拋、望請 天恩、因准先例、^{〔被〕}件功拜任彼官者、將知成功之不公矣、朝宗誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十日正六位上藤原朝臣朝

◎六七号参照、

五一 平國賴申文(一〇—四七)

正六位上平朝臣國賴

望內舍人、

仁安二年十二月十日

◎四九号参照、

五二 藤原有行申文(一〇—五四)

正六位上藤原朝臣有行誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、依進納大嘗會御禊女御代車副・牛飼□絹式拾陸疋・白

布伍拾肆端功、被拜任內舍人□

右有行謹檢案内、成功之輩拜任要官者、承前^{〔之〕}例也、爰有行去年十月大嘗會御禊之時、募內^{〔舍人〕}功、可進納件物之由、依被 宣下、不日進其物□最前可拜任之処、數度除目頻漏 朝恩、就中^{〔人〕}嘗會成功之輩、多拜任要官、此功一事何以□哉、望請 天恩、依件功被拜任內舍人者、將竭□節矣、有行誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十日正六位上藤原朝臣有〔任〕

五三 中原俊康申文(六一四六)

正六位上行主膳正中原朝臣俊康誠恐謹言、

請殊蒙

天恩、依當職并成業勞、被拜任民部丞叙爵所〔彈正力〕忠申他官替〔狀〕

右俊康謹檢案内、民部丞之中、被置文章生者、古今〔分力〕定準也、近則藤原久忠

・同親經・惟宗忠友等〔也力〕、既往之倫不遑毛、爰俊康派李門以一日未遂〔奉脱力〕、

隔榮路以万里獨瀟朝恩、陸沈之憂五内無〔也力〕、就中當時拜彼職之者、併非

成業也、亦彈正〔忠力〕者、是雖非本望、暫為慰沈憂也、加之東宮屬〔藤原力〕康貞、立

太子以後任民部丞、不幾程所叙五〔也力〕、謂坊官謂成業、每見傍輩之昇進、独

愁後群之晚〔也力〕、抽任之處何無哀憐哉、望請 天恩、因准先例、依〔感〕業勞、被

拜任件等官者、將勵勤王之節矣、俊康〔誠〕惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十一日正六位上行主膳正中原朝臣俊〔憲〕

五四 平則光申文(七一八)

正六位上平朝臣則光誠惶誠恐謹言、

請殊蒙

天恩、因准先例、以〔藤原力〕皇后宮職當年御給并去応保元年未給、被〔拜任力〕

右則光謹檢案内、以諸 院宮御給、拜任件官者、承前不易之〔例也愛力〕則光當年

御給之上、去応保元年未給、親父則次所讓給也、〔以一年力〕御給多拜除彼官等、

況於二箇年御給乎、拜任之處誰謂〔非也〕望請 天恩、因准先例、以件御給、被

拜任左右兵衛尉、左右〔馬少允力〕等闕者、將致警衛之勤矣、則光誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十一日正六位上平朝臣〔則光〕

◎三八号参照、

五五 平仲房申文(五一三〇)

正六位上行木工允平朝臣仲房誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、任 宣旨狀、依親父遠房成功、拜任左右衛門尉〔〕

右仲房謹檢案内、輸私物歷公用、募父功浴 皇恩者、古今〔尋乙〕之尋範也、爰

親父遠房賜鞍負尉功、去長承元年八月書写〔〕論、運送 熊野御山、鳥

羽禪定法皇・待賢門院御參詣之日、〔〕甫就法樂惟新、寔嚴重之御願、莫大

之殊功也、謂其功程〔〕四十二万九百十八疋也、訪之傍例可謂超過、而遠

房不遂早殞〔〕、其後去保元二年、可依親父之讓為仲房功之由、宣下先

重案先跡、一代聖教之書写者、連城刺史之勤勞也、思其〔〕之厚、既非

金吾之任、近則修理大夫〔藤原力〕基隆卿書写一切經、即蒙〔〕重任之 宣旨、安房

守藤隆仲書写同經、即於 八幡宮供養之〔〕任已畢、而至于遠房、功課之

後計星霜者既三十、父子之間〔〕号泣沈淪、就中近日成神社功之者、拜任

既多、仲房幸逢重〔〕之明時、盍浴優勞之恩沢、望請 天恩、因准先例、被拜

任件〔〕者、忽休積薪之恨、弥仰行葦之仁矣、仲房誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十二日正六位上行木工允平朝臣〔仲房〕

五六 伴守元申文(六一四二)

正六位上行主殿權大属伴朝臣守元誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、依奉公勞、被轉任少允闕狀

右守元謹檢案内、拜任當職以降、謂節會・ 行幸、〔謂之〕當番・非番、勤厚勝同綸

之上、兼帶 春宮坊主殿之〔〕、不論兩夜雪朝、偏勵夙夜節、勞効旁積、尤當

其〔仁力〕朝撰之處只仰哀憐、望請 天恩、依奉公之勞、〔被力〕轉任少允之闕者、弥

抽勲節之忠、守元誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十三日正六位上行主殿權大属伴朝臣守〔元〕

五七 源榮申文(六一五四)

正六位上源朝臣榮誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、且任 宣旨狀、依進納春日行〔奉〕用途新功、被拜

任左右兵衛尉闕〔狀〕

右榮謹檢案内、以私物經公用之輩、任申請拜任要官者、承^{〔前九〕}之例也、爰去保元三年行幸春日社之時、以藤原朝臣遠^{〔進九〕}納用途析榮任正功、去年十二月一日、可被拜任左右兵衛尉^{〔衛〕}最前闕之由、經奏聞之処、今年三月十八日、被

宣旨狀稱、右少弁藤原朝臣重方^{〔臣〕}宣、權中納言藤原朝^{〔臣〕}忠親^{〔宣〕}、奉勅依請者、成功輩抽賞異他之上、嚴重^{〔神九〕}事專被採用者歟、今浴玄渙誰謂非拋、望請天^{〔恩〕}、因准先例、被拜任件官闕者、弥知成功之不空、將竭^{〔繁九〕}衛之忠節、榮誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十三日正六位上源朝臣榮

五八 藤原重國申文(七一五)

(前欠)

聖代之恒規也、而於較負尉功者、近代所成來一萬疋也、^{〔爰九〕}重國期日近近給件功、進私物二萬疋預惣返抄、即被^{〔下九〕}宣旨、云丹青之類、云金銀之產、色目区分、進濟不^{〔職九〕}情思所濟之勤、可准超越之功、近則藤原重基造内裏成功稱過他人、不待次第任右衛門尉、又僅進一萬疋^{〔任九〕}彼官之輩、粗有其例、沉重國勤嚴重之神事、成代始^{〔之九〕}大功、抽賞可異他、採括蓋先及、就中八幡宮之事、不可^{〔准九〕}他之功、僉議之処、俟哀憐、望請天恩、依彼大功、被拜^{〔任九〕}左右衛門尉者、將知皇化之無偏矣、重國誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十三日内舍人正六位上藤原朝臣^{〔重國〕}

◎一〇五号参照、

五九 中原清永申文(七一五)

右京属從七位上中原朝臣清永誠惶誠恐謹言、

請特蒙天恩、因准先例、依当職奉公勞、被拜任主計允^{〔任九〕}

右清永謹檢案内、居諸司二分奉公之輩、転任三分官^{〔任九〕}不易之通規也、不遑羅縷、清永拜当職以降、十三箇^{〔任九〕}于茲、勤節功積夙夜匪懈、望請天恩、

因准先^{〔例〕}、^{〔依九〕}当職奉公之勞、被拜任件官者、弥仰奉公之不空矣、清^{〔承〕}誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十三日右京属從七位上中原朝臣清^{〔承〕}

六〇 藤原朝綱申文(七一三)

正六位上藤原朝臣朝綱誠惶誠恐謹言、

請殊蒙

天恩、因准先例、依去保元三年七月券左右兵衛尉^{〔尉功、令九〕}造進左馬寮四足門^{〔寮〕}老宇上、造加同寮厅屋^{〔老宇九〕}功、被拜任刑部丞闕狀

右朝綱謹考旧貫、以私物歷公用之輩、隨申請令拜任^{〔寮〕}者、是聖代之嘉猷、明時之通躅也、事為連綿不違毛舉、爰^{〔寮〕}去保元三年七月、造進件四足門老宇、而其上造加同寮厅^{〔屋〕}字、可為左右兵衛尉功之由、忝經天聽之処、依請預宣下^{〔之九〕}、終不日之功、遂覆勤之營畢、前後之功重疊、拜除之恩蓋^{〔比九〕}傍輩可謂殊功、營勞是重拔扱何異、就中以武官之功成文^{〔官之望九〕}、古今之間蹤跡多存、云彼云此有理有勞、拜任之処誰謂非^{〔擢〕}望請天恩、因准先例、以彼左右兵衛尉功、被拜任件刑部^{〔丞〕}、弥知成功之不空矣、朝綱誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十三日正六位上藤原朝^{〔臣朝綱〕}

◎京大本二二号参照、

六一 藤原宗景申文(二〇一三五)

正六位上藤原朝臣宗景

望民部丞、

仁安二年十二月十三日

◎一七八号参照、

六二 橋貞綱申文(二〇一三六)

正六位上橋朝臣貞綱

望内舍人、

仁安二年十二月十三日

六三 藤原光業申文(一〇一三七)

正六位上藤原朝臣光業

望諸司三分、

仁安二年十二月十三日

六四 清原頼業申文(一〇一三九)

正五位下行大舍人頭兼大外記備後權介清原真人頼業誠惶誠恐謹言、
請殊蒙 天恩、因准先例、罷所帶備後權介、以男正六位上康家、被^{〔釋任之〕}主^{〔任之〕}殿・掃部允等闕^{〔狀〕}

右頼業謹檢案内、為大外記者、罷所帶遙授、以息子^{〔申任之〕}諸司三分者、古今之

芳規也、近則中原師業・同師元^{〔同師尚力〕}等是也、於師元者、兩度有此恩、於師

尚者、雖為位次^{〔之下屬力〕}、去年以師倫申任內藏少允畢、准彼等例被優恤者、
〔誰謂非之〕 擧、望請 天恩、被罷備後權介、以件康家被拜任彼^{〔等關力〕}者、將令竭奉

公之節矣、頼業誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月十三日正五位下行大舍人頭兼大外記備後權介清原真^{〔人頼業〕}

◎一四号、四六号参照、

六五 藤原親資申文(一〇一四八)

正六位上藤原朝臣親資

望內舍人、

仁安二年十二月十三日

◎一二号、一〇七号、一三三三号、一八七号参照、

六六 紀實清申文(一〇一四九)

正六位上紀朝臣資清

望左右兵衛尉、

仁安二年十二月十三日

六七 藤原朝宗申文(一〇一五〇)

正六位上藤原朝臣朝宗

望內舍人、

仁安二年十二月十三日

◎五〇号参照、

六八 中原友光申文(一〇一五一)

正六位上中原朝臣友光

望左右兵衛尉、

仁安二年十二月十三日

六九 源弘貞申文(一〇一五五)

正六位上源朝臣弘貞誠惶誠恐謹言、

請特蒙 天恩、因准先例、依進納正六位上源朝臣行長^{〔人狀力〕}左方褰帳女王

參動用途准綱式任疋功、被拜內舍^{〔人狀力〕}

右弘貞謹檢案内、以私物經公用之輩、拜任要官者、^{〔月力〕}不易之例也、爰行長

募內舍人功、去永万年七^{〔月力〕}御即位用途准綱進納、即預惣返抄畢、而有事

請 天恩、因准先例、被拜^{〔任之〕}內舍人者、將知成功之不空矣、弘貞誠惶誠恐謹

言、

仁安二年十二月十三日正六位上源朝臣弘^{〔貞〕}

七〇 和氣盛安申文(六一四九)

散位從五位下和氣朝臣盛安誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依奉公并散位勞第一、被拜任左京亮闕狀

右盛安謹檢案内、医道之輩隨申請拜除左右京亮者、^{〔古力〕}今之通規也、近則和

氣貞相・同相時・惟宗清則等是也、自余^{〔之〕}例不違毛拳、爰盛安大治二年任典

葉屬、長承四年^{〔任〕}少允、永治二年閔采爵、然問奉公之勞多積、勤王之節^{〔勞〕}專、苟仕五代之賢世、早踰六旬之類齡、抑医道散班之中奉公之者、盛安最一也、拜任之処誰謂非抛、望請

天恩、因准先例、被拜任左京亮闕者、將知聖化之貴矣、盛安誠惶誠恐謹言、
仁安二年十二月十六日散位從五位下和氣朝臣盛^{〔安〕}
◎京大本六号参照、

七一 卜部兼友申文(六一四一)

正五位下行神祇權大祐卜部宿禰兼友誠惶誠恐謹言、
請殊蒙 天恩、因准先例、罷所帶權大祐、以正六位上大中臣朝臣能隆、

右兼友謹檢案内、罷所帶職奉補親族者、承前之例也、又諸社^{〔司〕}行幸賞者、古今之通規也、爰兼友為神祇大祐帶平野惣官、行幸之日雖^{〔司〕}、依居三分之官、難叙四品之爵、追可申請之由、所被 宣下也、雖須^{〔司〕}其勸賞列

一座、大祐之後、歷十八箇年之間、大少副闕逢三箇^{〔司〕}、外任之者各列昇^{〔司〕}、或下藹之輩暗以超越、空漏^{〔司〕}、愁、雖知宿運之至拙、猶歎 朝恩之不覃、齡漸迫五旬、前途期何^{〔司〕}崇神之賞非可^{〔司〕}止、因茲罷當職登用親族、以彼賞欲加階級、件^{〔司〕}為因緣不異父子、謂譜第者祭主親隆朝臣之男也、本官故実焉父祖之^{〔司〕}在耳底、當氏勤役矣神祇之礼奠存胸中、況乎祭主子孫抽賞異他^{〔司〕}兼友^{〔司〕}
(後欠)

◎本文書年月日不詳、兼友仁安二年十二月十六日叙從四位下ニヨリ、コホニ収メ、

七二 藤原仲教申文(五一三二)

正六位上行右近將監藤原朝臣仲教誠惶誠恐謹言、
請殊蒙 天恩、因准先例、依當職并成功勞、遷拜兵部丞闕狀
自衛府官任兵部丞例

藤原公長 元永二年正月任兵部丞 元左兵衛尉
藤原範光 保元元年十一月任兵部丞 元右近將監
卜部基忠 永曆二年八月任兵部丞 元左兵衛尉

右仲教謹檢案内、自衛府官遷兵部丞者例也、粗注先^{〔司〕}載于狀右、自余之例不違毛拳、爰仲教去永曆二年九月、^{〔司〕}綸言募諸司助功、進納鴨御祖社遷^{〔司〕}宮用途祈先畢、次^{〔司〕}年依右近衛府成功拜任當職、警巡之勞夙夜匪懈、^{〔司〕}當職恪勤之上、混合彼諸司助功、令任兵部丞、誰謂妄授、^{〔司〕}天恩、因准先例、依件等勞、遷拜彼官闕者、將仰 皇化^{〔司〕}無偏矣、仲教誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月 日正六位上行右近將監藤原朝臣^{〔仲教〕}
◎七七号、一七〇号参照、

七三 皇嘉門院申文(六一五六)

皇嘉門院
請因准先例、返上年年御給未補外国三分四人、以正六位上行民部丞藤^{〔原〕}
朝臣盛光、被叙爵狀
外国三分
久安元年御給未補
同二年御給未補
仁安元年御給未補
同二年御給未補

右返上年年御給未補外国三分四人、申榮爵者例也、仍^{〔司〕}件盛光、所請如件、
仁安二年十二月 日別当正三位行權中納言藤原朝臣^{〔宗〕}
自^{〔司〕}

七四 藤原貞親申文(六一五八)

正六位上行少内記藤原朝臣貞親誠惶誠恐謹言、
請殊蒙 天恩、因准先例、依重代奉公勞、拜任兵部丞申叙爵^{〔官〕}
右貞親謹考案内、柱下奉公之輩、隨其申請拜要^{〔司〕}者、承前之通規也、何況譜

第之輩抽賞先輩者□、爰貞親者、出羽守俊基之孫、大和守致康男也、□生重代之家、旁抽勤王之志、就中當職之後、每□公事未致一度之懈怠、思其勤勞已超傍□、今浴皇恩誰謂非拋、望請 天恩、因准先例、依重代□公勞、被任件官者、忽繼祖跡弥抽臣忠、貞親誠□誠恐謹言、

仁安二年十二月 日正六位上行少内記藤原朝臣貞□
◎一三三号参照、

七五 大江高成申文(六一五九)

□六位上大江朝臣高成誠惶誠恐謹言、
請被殊蒙 天恩、因准先例、依進納去保元元年季相撲節樂器用途□准網

參任疋、拜任木工・掃部允・左右京・修理等進闕

右高成謹檢案内、以私物支公用之輩、任要官者、古今之例也、□高成 當院御宇之時、相撲節始之季、進納右衛門府樂器用途□内准網三千疋、可為諸司三分功之由、當府經 奏聞之間、即□日之 宣下、已終合期之營勤、隨又預惣返抄先畢、因玆每□除書雖進申文、數年悲歎于今沈淪、就中同成功之者四人□、於三人者各遂本望、少監物藤原信清、大舍人少允大江高遠、
衛少尉藤原政友等也、高成誤生有道之邦、宿運雖拙獨漏無□化、天憐盡覃、僉議之処仰期抽任、望請 天恩、因准先例、依件□拜任彼官、適遇賢聖之明時、將知王事之不空矣、高成誠□誠恐謹言、

仁安二年十二月 日正六位上大江朝臣高□
◎九四号、一〇〇号参照、

七六 紀資能申文(七一三三)

正六位上紀朝臣資能誠惶誠恐謹言、

請殊蒙

天恩、因准先例、依去仁平二年行幸石清水・賀茂兩社用途折、以私□絹伍疋進納行事所、募超越造大極殿廻廊式間功并奉

公勞、被□左右兵衛尉闕狀

右資能謹檢旧貫、以私物歷公用之輩、隨申請任要官者、□不易之恒規也、爰資能募彼功、或拋資財或營土木、即預□旨惣返抄、成功之後多年于玆、頻漏鴻恩未遂素意、謂成□敵重之神事也、以而社之功蓋拜一割之官、況彼廻廊者無□之皇居也、仰可任最先闕之由、尽可勵肩轟功之力、就中□寓直射山藏人所十有余廻、敵寒冱陰之地踏凍而朝々、□三伏之天拭汗而暮々、云成功云奉公、其勞既勝等倫、採□之処誰謂非拋、望請 天恩、因准先例、依數度成功□公之勞、被拜任左右兵衛尉闕者、將知綸綍之不空、資能□誠恐謹言、

仁安二年十二月 日正六位上紀朝臣資□
◎七二号、一七〇号参照、

七七 藤原仲教申文(七一三二)

正六位上行右近將監藤原朝臣仲教誠惶誠恐謹言、

請殊蒙 天恩、因准先例、依當職并成功勞、遷拜兵部丞闕狀

自衛府官任兵部丞例

藤原公長 元永二年正月任兵部丞 元左兵衛尉

藤原範光 保元元年十一月任兵部丞 元右近將監

卜部基忠 永曆二年八月任兵部丞 元左兵衛尉

右仲教謹檢案内、自衛府官遷兵部丞者例也、粗注先蹤□于狀右、自余之例不遑毛拳、爰仲教去永曆二年九月、依 綸言募諸司助功、進納鴨御祖社遷官用途折先畢、次去□依右近衛府成功拜任當職、警巡之勞夙夜匪懈、然則□恪勤之上、混合彼諸司助功、令任兵部丞、誰謂妄授、望請 天恩、因准先例、依件等勞、遷拜彼官闕者、將仰 皇化之無□、仲教誠惶誠恐謹言、

仁安二年十二月 日正六位上行右近將監藤原朝臣仲□
◎七二号、一七〇号参照、

七八 齋院司請奏(二〇一四〇)

齋院司

齋院司

請殊蒙 天恩、因准先例、依進納去永万元年四月禊祭用途〔自署〕蘇芳捌佰

式拾兩功、以正六位上橋朝臣賴業、拜任内舍人〔狀〕

右得賴業款狀云、謹檢案内、禊祭用途不足時、補闕成功之〔繼〕、拜任要官者、

承前之例也、爰賴業去永万元年四月禊祭〔時力〕、募内舍人功、進納私物蘇芳捌

佰式拾兩、即預惣返抄畢、〔申力〕宿望未遂年序久積、採扱之処只仰哀憐者、加覆

審所〔申力〕有美、望請 天恩、因准先例、依彼功被補件闕者、將知〔成〕功之不空

矣、仍勒在狀、謹請 处分、

仁安二年十二月 日正六位上行主典大江朝臣〔自署〕義重

正六位上行主典源朝臣〔義力〕宗〔自署〕

正六位上行判官源朝臣〔自署〕範〔澄〕

正六位上行判官高橋朝臣〔自署〕康〔自署〕

正六位上行次官藤原朝臣〔自署〕憲〔自署〕

從五位下行次官藤原朝臣〔自署〕公清〔自署〕

從五位下行次官高階朝臣〔自署〕基〔自署〕

長官從五位下源朝臣〔自署〕有房〔有房〕